

## 高等学校グランドデザイン会議第4回西北・中南地区部会概要

日時：平成19年 6月12日(火)

13:00～15:00

場所：弘前合同庁舎別館A会議室

### <出席者>

野呂部会長 竹林副部会長 大平委員 尾崎委員 工藤委員 櫻庭委員 藤田委員

### 開会

### 司会

それでは定刻になりましたので、「高等学校グランドデザイン会議 第4回西北・中南地区部会」を開会いたします。次第によりまして、高等学校グランドデザイン会議におけるこれまでの検討状況(中間まとめ)に係る概要説明を事務局からさせていただきます。

### 高等学校グランドデザイン会議におけるこれまでの検討状況(中間まとめ)に係る概要説明

### 事務局

西北・中南地区部会は2月14日までに3回行われ、様々な意見がありましたので、第1・2専門委員会の意見を取りまとめた形で第4回検討会議に上げました。その会議において大筋は了承された上で、若干の字句文言の整理をするという事で議長が引き取り、それを修正して4月23日に議長から教育長へ中間の意見の取りまとめという形で提出されたものです。他の専門委員会等が担当した部分については今まで見ていない所もありますので、そこも含めてもう一度確認していただいております。

新聞等でも報道されていますが、この中間まとめについては県教育委員会のホームページで県民の皆さんからの意見を伺っております。現在8件の意見が寄せられていますが、まだお見せできる段階ではありませんのでもう少しお待ちいただいて、まとめてからお見せする事としています。また、中学校長会、高校長協会からも意見をいただいている所です。

これにつきましては、7月の検討会議に諮り、修正して行くものと考えていますし、この地区部会の意見も報告されるものと考えております。

以上が、中間まとめの経緯です。

中間まとめの9ページの部分ですが、(ア)(イ)(ウ)の他に、水産、家庭、看護という専門学科がありますが、特に意見も無く検討されませんでした。そこで、事務局

から検討の参考となる資料を県高校長協会にお願いし、提出いただいた資料が、お手元の参考資料「職業教育を主とする学科(水産、家庭、看護)」です。この資料については、専門委員会に配り検討いただいております。本日の検討にも関わる資料という事で、主な部分を事務局から説明します。

#### 【事務局から、参考資料に基づき説明】

司会

それでは次第によりまして、意見交換に入りたいと思います。ここからは野呂部会長に進行をお願いします。

#### 意見交換

野呂部会長

今回で4回目になるのですが、今日は検討会議から教育長へ出された中間まとめについて地区としての意見を伺いたいと思います。

この中間まとめは、「1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方」「2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方」「3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方」の、大きく3つに分かれています。今までも何度か話ありましたが、改めて9月の最終報告のための準備に向けて、まず「1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方」について委員から意見を伺いたいと思います。「(1)1学年当たりの適正な学級数」について、教育水準、教育条件、教育環境の維持・向上という視点から、望ましい学級数が具体的に示されていますが、これについて全員から意見を伺いたいと思います。

竹林副部会長

学級数はこれでいいと思うのですが、普通科の割合をどうするのかという問題があると思います。前回も話しましたが、普通科を希望する生徒や保護者が多くなっていて、本当は普通高校に行きたいが職業学科等を有する学校へ行かざるをえないという生徒がいる事を考えて行かなくてはいけないという気がしています。

野呂部会長

募集割合については4ページで出て来ますが、やはり普通科の割合を念頭に置かなくてはならないでしょう。

竹林副部会長

後は、深浦高校のように交通の便の悪い、あるいは遠い所の学校の取り扱いです。行

きたくても交通機関の問題で行けないとなると、やはり配慮した方がいいのか、等が今後の課題です。

#### A 委員

3市以外の職業学科や総合学科が4学級規模になると、割合として果たしていかななものかという感じがします。

#### B 委員

標準としてはこれでいいのではないかと思います。この後で出て来る普通科等、職業学科、総合学科の割合が偏った配置にならないような配慮が必要だと思います。標準という表現は、いくらかの学級数の増減は考えているのだと思いますが、1学級の定員についても地区の状況に応じて、一律ではなく幅を持たせるという事なのではないでしょうか。

#### 事務局

実施計画を策定する段階の話なのでどうという事はありませんが、現状では1学級40人と35人と30人でやっていますので、一律に40人に戻すのは難しいのではないかと考えています。先の話なのではっきりとは言えませんが、検討会議と専門委員会では現状を追認した形で議論しています。

#### C 委員

学級数の規模はこれでいいのではないのでしょうか。全ての父母や受験生が満足できるという事は難しいでしょうし、超少子化に向かう社会で、上を見ても下を見てもきりが無いでしょうし。少なくともこれからは、そういう考え方では県の財政が立ち行きません。教育ですから決して財政面だけではないのですが、その県の教員配置については、国からの金で運営しているという実態はありますし、義務教育でもそうですが、学校運営をする上で適正な学級規模の維持は必要なのではないかと思っています。

#### D 委員

標準の学級数としては適正だと思いますが、交通手段も含めて、地域をどう分けるかではないのでしょうか。

#### E 委員

前回の話しでは、1学年4学級以下になると先生が複数の教科を担当しなくてはいけなくなるという話しでしたから、教育の機会均等を考えると、1学級35人にしてでも4学級を維持するべきだと思います。そういう点からすると、この学級数はいいと思います。

#### 野呂部会長

適正な学級数については、概ねこれでいいのではないのでしょうか。その中でも、偏った学校配置や交通手段についても考えなくてはいけない、普通科の割合をどうするのか、という意見が出ました。また、生徒数が減って行くと4学級標準で行けるのかどうかという事もあります。

次に「(2)普通科等、職業学科、並びに総合学科の在り方」です。4ページに募集割合の事が出ています。先程意見があったように、普通科の割合が高まるのが望ましいと出ています。何か意見はありますか。

#### 竹林副部会長

先程、中学校長会と高校長協会へ意見を求めているという話がありましたが、やはり生徒自身が大学へ行きたいという数が年々多くなっていますので、そう考えると私達の地域では普通科の割合を多くする必要があるでしょう。どれくらいの割合がいいという話までは行きませんでした。中学校長の意見としてはそういう意見が出ていました。

#### B委員

普通科の割合を高くする事で、生徒や保護者の進学希望に応えられるという意見も分からない訳ではありませんが、うちの学校の生徒の進路志望状況は、1～2年生の段階では上級学校進学9割、就職1割ですが、実際には上級学校進学8割、就職2割という状況です。総合学科は進路志望が非常に多様な生徒が集まり、しかも上級学校へ行きたい生徒が増えていますので、それにできるだけ応えるために必要な系列・選択科目を置いています。普通科を増やせば志望に応えられると、一概に言えるのでしょうか。教育の中身まで考える事も必要ではないのでしょうか。総合学科を理解してもらうためのアピールが足りなかった事から、こういう状況になっているのかもしれませんが、現状として総合高校はそれぞれ生徒の志望をかなえる努力を積み重ねていますので、単純に全国の平均割合と比べてという進め方ではなくて、学科の内容まで考え議論を展開して行く事が必要だと思います。

#### 竹林副部会長

昔は親の仕事を見ると大体は生徒の進路のイメージができたのですが、今はなかなかイメージできません。中学校でもキャリア教育はするのですが、なかなか職業観を持っていないものですから、とりあえず高校に行ってから自分の進路を決めたいという生徒がかなりの数あります。専門高校へ行くと、ある程度は進路先が狭まって来ます。進学も可能になってはいますが、まだまだ狭いですし、教師も専門高校は就職というイメージがまだまだ強いようです。中学校段階で進路をはっきりして、それから高校を選びなさいというのはなかなか難しいです。

野呂部会長

各地域における学科の募集割合については、産業構造やこれまでの経緯等を十分に配慮するとなっているようです。総合学科については後程も出て来ますので、ここでは普通科だけが進学ではないという意見ですね。

「(3) 適正な学校規模を実現するための方策」に進みます。まず統廃合の必要性についてです。

事務局

補足ですが、先日の専門委員会で「三市の普通高校を含めた統廃合」という部分が、読み方によっては三市以外の高校を三市の高校に統合すると読めるのではないかと、という意見がありましたので、表現について再検討する必要があると思います。意図としては、三市の中でも統廃合をしなくてはいけないという事だと思っておりますが、少し曖昧な表現になっています。

竹林副部会長

統廃合しないと、適正な6学級や4学級を維持できないでしょうから。

野呂部会長

統廃合の必要性としては、生徒数の減少や適正な教育環境の維持という観点からやむをえないという事によろしいですか。

地区毎の学校配置については、この地区で見るとやはり深浦校舎ですか。

B 委員

平成19年度から深浦高校が校舎化されました。この後に出て来る部分と関係して行くのですが、実態として隣の学校、あるいは中心校へ行くにしても大変な距離で時間がかかります。秋田県境と接する所から通って来ている生徒もいますが、車で40分かかります。校舎から一番近い鱒ヶ沢高校まででも45分かかり、中心校である木造高校までは70分もかかります。このように、県境から通っている生徒は大変な時間がかかっていて、もし無くなると大変な負担になり、学校行事や部活動に困難な状況が出て来るのではないかと思います。こういった事からも、特殊事情がある校舎については配慮する事が、その地域に住む生徒にとって非常に大事だと思います。

野呂部会長

深浦校舎は特殊ですね。例えば、地区毎の学校配置として、通学困難である学校と考えるとこの地区では他にありますか。

竹林副部会長

無いのではないのでしょうか。

C 委員

前段は思い切った文章で表現しています。これは10～15年先の将来を見据えると、好むと好まざるとに関わらず人口が減り僻地が増えるという状況で、右肩上がりの時代は終わった事を見据えてやって行くという事なので、とてもいいと思います。

ただ、あまり思い切った事だけでは進めないのも、それなりにやって行こうという事だと思いますが、現状としては、私は中段でしようがないという感じがします。

野呂部会長

思い切った事を言った方がいいですか。

C 委員

玉虫色でもしようがないとは思いますが。

野呂部会長

この地区では、他に深浦校舎のように無くなると通うのが大変という学校はありますか。一番遠いのは大鰐校舎ですか。電車でどれくらいかかりますか。

C 委員

電車で30分くらいですか。

野呂部会長

五能線みたいに1時間に1本とかではなく、結構本数はあるのですね。これでよろしいのでしょうか。

次は「(4)校舎制の今後の方向性」です。意見はありますか。

C 委員

中間まとめとしては、こう書かざるをえないでしょう。

E 委員

深浦地域は商圈は能代です。ですから、無理に青森県内に通学してもらおうとすると時間がかかりますが、能代に行くとき少ない時間ですむという事もあります。

どうしても校舎制が維持できなくなる場合はやむをえないでしょうが、生徒の送迎をしっかりとやるなど、対応を真剣に考えるならばそれほど問題ではないという気がします。校舎をいつまでも残す事は、どう考えても現実として無理なので、それはそれとして認めて、できるだけ生徒に負担をかけない方法を考えるのも一つの方法だと思います。

野呂部会長

それではよろしいでしょうか。

「( 5 ) 定時制の今後の方向性」についてですが、意見はありますか。

C 委員

これでいいのではないですか。

野呂部会長

それでは 10 分間の休憩を入れます。

~~~~~ 休 憩 ~~~~~

野呂部会長

それでは、「2 社会の変化と多様な進路志望に対応する学科・コース等の在り方」について、意見交換に入ります。

「( 1 ) 学科・コース等の検証」として、現状を踏まえて検証をしているのですが、大体よろしいでしょうか。

次は「( 2 ) これまで設置した学科・コースの今後の在り方」についてです。まず、普通科等についてはいかがですか。

A 委員

表現科とはどこの高校にあるのですか。

野呂部会長

八戸東高校にあります。他によろしいですか。

次は職業学科についてです。

竹林副部会長

中学校の立場からすると、他の専門学科も含めてなのですが、学科名があまりに細か過ぎて、実際に何をやっているのか子ども達に説明できませんので、理解できる表現にして欲しいです。

また、高校体験の場をより一層広げて行く必要があります。体験入学はありますが、2 ~ 3 時間校内を見せて終わりでは、自分達の今後の 3 年間を見通す事ができません。そういう事にも配慮する必要があると考えています。

C 委員

全く同感です。義務教育と高校では接触があまり無いようで、児童・生徒に対し進路指導をする際によく分からない事があるのが現実のようです。県教育委員会では、義務教育の進路指導の先生に対し、学科の趣旨等を伝える努力をして欲しいです。

野呂部会長

以前にも出ましたが、もっとオーソドックスな方がいいという意見がありましたね。

C 委員

中学校の進路指導の先生に対して、県教育委員会から高校の学科・コース等について説明会はあるのですか。

竹林副部会長

まとめたパンフレットが来ますが、文章だけではなかなか理解できません。各高校も説明会はするのですが、10～15分ではなかなか細かい所に入って行けないのが現状です。

C 委員

中学校の進路指導の先生からよく聞くのですが、あまりに忙しくてその説明会に行けず、そうすると分からなくなるという現状のようです。

野呂部会長

高校の方でも、時間をかけて説明して行く方策が必要だという気はします。学校説明会をやったとしても、一通りの説明で終わるのでは理解するのは難しい気がします。これは高校の反省材料ですね。ただ、県教育委員会が全部やるのは大変なので、地区毎などで考えてはどうでしょう。

E 委員

中学生が高校の中を見たいと要請があった時は、見せてもらえる制度はあるのですか。

野呂部会長

各学校で対応していますが、大体見る事ができます。

B 委員

中学校から行きたいという話があれば、対応し説明したりしています。

#### 野呂部会長

中学校では、総合的な学習の時間を利用して高校を見て回るという事もありますし、高校の方で断るという事はまず無いと思います。

次は「(3) 普通科における全日制単位制の在り方」ですが、青森東高校、八戸北高校には既に導入されていますが、弘前南高校には来年度から導入する事になっています。これらの状況を踏まえて、方向性を検討するという事でよろしいですね。

次は「(4) 新しい学科・コース等の設置の必要性」についてはいかがですか。

#### E 委員

表現科はどういう経緯でできたのですか。地元から相当強い希望があったのですか。

#### 事務局

今の高等学校グランドデザイン会議と同様の組織である、青森県高等学校教育改革推進検討会議の平成11年2月に出された報告中の、特色ある学科・コースを拡充するべきという提言を踏まえ、芸術に関する学科・コースとして八戸東高校に表現科、青森戸山高校に美術科を設置しました。ですから、特に地元からの要望という話ではないと思います。

#### E 委員

設置から4年経っていますが、表現科を作った効果はあるものですか。

#### 事務局

学校では、学科を作ったなりに成果が上がるよう努力しますし、入学した生徒もそれを目指して来ているのですから、成果は上がっていると思います。ただ、それをどう評価するかとなると、それぞれ違いはあるのかと思います。いずれにしても、設置されて間が無いものですから、進路も含めてまだ落ち着いていないという事はあると思います。

#### 野呂部会長

学科によっては継続して定員割れしているという問題もあるようですので、その辺も含めて慎重に検討するという事でよろしいですね。

次は「(5) 統廃合による新しいタイプの高校の可能性」についてです。

#### E 委員

掘んでいる範囲で結構ですが、全国的に見て、これは変わっているタイプだという学校の例はありますか。

事務局

農業高校と工業高校が統合した学校がありますし、また、総合技術高校という名前で職業学科が集まった学校もいくつかありますが、全ての県で実施しているという事ではないようです。

E 委員

新しいタイプという事ですが、例えば今一部で流行している酪農の単位が取れるとか、そういうものとは違うのでしょうか。工業高校と農業高校を統合するとかいう事ではなく、既存の学校とは全く次元が違う単位が取れるような高校ではないのですか。

事務局

酪農という事であれば、かつての流れから七戸高校の総合学科で継承しているのかもしれないですが、おっしゃったような酪農学科があるのかは調べていません。しかし、高校のニーズとして今までは無かったのかなと思いますし、ニーズと出口のバランスを見極めて行く必要はあると思います。

E 委員

新しい学科を設置する事で根本的に変わると、学校のイメージが変わってしまう事もあるという想定で申し上げたのですが、あまり大きく変わるという事ではないのですね。

竹林副部長

片方では統合し、片方では新しく作るのでは話が違ってしまいます。学科改編の中で考えるのであればいいのでしょうか。

B 委員

この文面では、自分達に身近な所で考えてしまうのですが、西北・中南地区ではあの学校が対象になるのかと考えてしまいます。すぐ近くにある農業高校や工業高校を組み合わせた学校・学科を作って行く、という意味が含まれているのですか。

野呂部長

文面から見てもそうだと思います。

事務局

検討会議の意向としては、統合をするならそういう事も考えるべきなのではないかという事です。実際にそうなるのかはこれからの話ですが、提言としてはそういう事です。

B 委員

教育課程の編成や、校舎と実習施設が離れた場合の生徒の移動・安全管理などの問題があり、教育的効果が十分に発揮できるのでしょうか。こういう事をするのであれば、新しいタイプの高校を作って実際に運営して行く時に、教育的効果を十分に発揮できるような方策をしっかりと見極めてやる必要があります。現在、木造高校を中心校として校舎化が実施されていますが、校舎化をするとこのようなメリットがあるとされていましたが、例えば中心校との交流や合同の部活動等について、実際にできるかとなるとほとんどできない状態です。

ですから、書いてある事が十分に発揮できるような方策を是非考えていただきたいです。

#### 事務局

例として農業と商業と書いてあると、農業高校と商業高校が統合する計画なのかと捉えられてしまう部分があるようですので、先日の専門委員会ではここまで書かなくてもいいのではという意見がありました。また、書くのであれば全ての組み合わせを書かなくてはいけない、との事でした。

#### A 委員

新しいタイプという言葉は少しひっかかりますが、時代のニーズに合わせた中で、専門的な学科をやって行くという解釈でしょうか。

#### 野呂部会長

結局は、全く新しい学科を作るのではなく、農業と工業を統合したり、総合技術高校を作ると感じる文面ですね。

#### E 委員

少し消極的な感じがしますが。

#### 野呂部会長

県財政の問題もありますし、カリキュラムや場所が離れた場合等の問題があります。

#### C 委員

上級学校に行く人はいいのですが、学校を出てから御飯を食べるために働く訳ですが、社会が望む事と学校が考える事に乖離がある気がします。社会がどういう人材を求めているのでしょうか。あまり新しいタイプの事を高校でやっても、果たしてそういうニーズがあるのか、私は疑問に思います。ですから、職業系の学科はある程度オーソドックスな形で存続させるべきだと、専門委員会でも話をしました。全国先進県を目指すよりも、もう一度オーソドックスな事が求められる時代が来るでしょうから、それ

をしっかり教え込むのが工業高校であり商業高校でしょう。あるいは、それがどうしても必要なら、社会にも実習等を引き受ける場所があるので、民間に話しをすればいいのです。農業をしている人が、売る時にどうするのか、値段をつける時にどうするのか、損益分岐点はどうなのか、と考える時には、そういう事を社会で教える事はできるのです。ですから、まずは専門のオーソドックスな部分を学ぶのが高等学校の在るべき姿なのです。

野呂部会長

「(6) 専門学科の募集方法」として、括り募集が考えられると出ています。複数の学科を一括して募集し、ガイダンス期間を経てから希望する学科へ進むのですが、これについてはよろしいですか。

B 委員

言葉使いなのですが、ここでは専門学科と書かれていますが、職業学科ではないのですか。

事務局

専門学科となると、英語科や人文科等も含めてという事だと思います。考え方としては、普通科と英語科を括り募集という考え方もある、という事も含めての表現だと思います。

野呂部会長

例えば水産高校のように、学科によっては括り募集は適切でないという事もありますから、そういう意味で専門学科という表現をしているようです。

「3 県立高等学校と中学校や大学等との連携の在り方」の「(1) 中高一貫教育を含めた中学校と高等学校との連携の在り方」についてです。前にも何回も話し合いましたが、連携型と併設型があります。連携型についての意見は新聞でも報道されましたが、そういう意見があったという事でよろしいですか。

「(2) 高等学校と大学等との連携の在り方」については、現在も行われていますので、これからもより一層促進するという事でいいですか。

「(3) その他の連携・協力の推進」について何かありますか。

中間まとめに対する地区の意見を出してもらいました。もう一度8月にあるのですが、それまでに考えた方がいい事はありますか。

C 委員

この中では「必要がある」など色々な書き方をしていますが、これで終わってしまうのですかね。

野呂部会長

これを基にして、今後は事務局で詳細に検討して行くという事なのでしょう。

C 委員

総論を踏まえて、県教育委員会が今後の政策として決めて行くと捉えていいのですか。

事務局

提言をいただき、その考え方を基に県教育委員会では実施計画を策定する事になっていきます。

野呂部会長

それではよろしいでしょうか。これで地区部会を終了します。